二十四孝繪抄

全

二十四孝繪抄 全

備前 熊澤了次編撰
攝陽 浦川公左画圖

大阪書林 宋榮堂梓

評註

○虞舜　大舜の父ハ瞽瞍とゝなつて盲てかさくらかあるゆへ継母ゝ
しく弟を生ろ象と名づく性おごり怒りて狂戒能れを行へ
ゝ母も欲とかへ象ハ傲慢にして孝なとをろ為ふ歟ふとゝ耕作
けるふたりの弟ハ田を耕し舜ハ畑を耕ふ
今ゝ孫者ゝ北を訪し鬼神と感ずるゆへ力を尽ゝ
して舜ハ仕へ父母を敬ひ弟象ハ舜を田ふ切て不孝の罪
を正ふ仕ふく敬ふ人の内ふの形容の数ふ
余ゝてゝ学ふ出ふ人ハ父母弟ハ仕ふ力を合せて敬ふ人と
種ゝ巧まんゝとゝも遂ゝて自ら敬ふ出入神のゝ
帝堯ゝ聞ふ賓客の礼とりつく大舜を立ゝ九男の婿

大舜
隊隊耕
春象
紛紛耕
草禽
嗣堯登
寶位
孝感動
天心

又命じて祭り義純を生せり先法女る賢聖女英とぐぐして舜の帰
嘉となりしめ給い賓客と中ば摂政の職を命じ終に一天万乗の
宝位を授けまして天下豊高ふ治りし堯舜の古代とてもかくまの例ふ

○漢文帝　漢の文帝いろ紀元二百四十六年代王に封ぜらるる彼の母薄氏
代王に居たまひ国勤かしくて仁慈なるを知て
近へ寄給へり帝位に即給ひし紀の側室なり文帝
天下を治給ふ時高后崩ぜ帝の母に孝養
の心を尽せらるる事ひとしきこと
試しなり高后崩ぜ帝寝食を忘れ
づから薬餌の供御を調へ給へり
天下に孝子を称賛朝に忠臣を称
文帝の孝を称ぜざる者なし
日月宇宙あらんかぎり
[illegible]

万物ことごとくそなはる人の身の精実と成て孝悌の徳あらはれて
孝子の名を明徳の感ずる所なり

○曾子　周の孝子名は参字は子輿大賢人なり孔門道統
の宗なり親に仕へて孝心篤し母指を噛む時山林にありて薪を
負ひて家に帰り母病りて臥せるを見て涙を流して泣く親の
骨肉至情深しまたこれを聞て母を思ひ涙を流す孝心の
指をかむ事なかれ母の命を待ず
なり母病て死せるを見て母を思ひ涙を流す孝心の
指をかむ事なかれ母の命を待ず
なり
父人五世の母に孝心一致通ずるなり是孝子の感ずる所
妖孽の人害をなすこと能はざるなり

一体をへだつる
と無病無疾
の生涯を通せ
さるべしや況
て孝悌忠信を
とつくして家の
情実如何よ
孝を尽せる婦
人は母在
尊前留
晩娘
何曾怨
賢良
閔氏有
三子免
風霜

閔子騫

○閔子騫　周の閔子名は損字は子騫孝行の人母
父母の妻をめとりて二人の男子を生るに
ひとりの子を産せ損を養育せり父母
ものうるとき損が衣服を綿入にせり父
故を尋ねて継母を去んとせば損ちゝと
いまゝ家もうせさせ人のなすがごとくなり
人ゝをいさめける継母も此一言を聞て涙を流し悔あらためとなり
孔子の徳を称ともろい家者の孫なり成人のものは自ら用んしき
家を治べし他人の言を信ずべからず
孝子を失ふを恨い孝情の者なり閔子騫ハ是を恨ず継母と

仲由

ちゝ二人の中
の生そうんてと
とゝひこ父とか
ぶ之後母の恵
と変じて慈母
と成むかしの孝子
して和も又大すう
こうんまぶ
孔つこの中も
ぶんしぶんしぶ
新る良ゐと称
揚せう

○仲由　周の仲由字ハ子路孔つの弟子十哲の内一人父母の
しゝ為の養ひ藜藿と雖く食ふ日毎二百里の外ニ米を負て
まゐらせとゝろ父母と共ニ没し後孝の名世間ニあまねきつのゝな
らび絶偏する事ハ世ニ稀也の王公礼を厚くし幸て是と招と
いへども釈あるゝ事なく古今ともに新説まこと怪奇の方策ニつゝの絶事
百姓たゝ粟と稗とを植て方種之調と幸ひて是一揚とつゝて食事欲
て回釈の為ニ米と負て遠路を食ふ人ぶ物ニ出ようみいざるとうもとる
語い事ん法方の人ハ事物ニ出ぶ事ハ為ニ法を用て
ぶ方の人ともるとの人物ともる法いそ方と父母の孝ぶ用ようはる
のゝまぶ人皆天性の孝ふ用ひぶ人孝の為ふ用ひぶてん

孝の子ふ用ひなば天下い治めずして自然と孝うなるべしこれ治の道
まさに末代万世の師とすべし

董永

葬父貸方兄
天姫酒上迎
織絹償銭主
孝感盡知名

○董永　漢の董永はかまがまいめてをそ〜孝よ備ふ
耕作〜傳ことをうて旦を送る父老て早くをざわがまと始てをそよ
の世間の日よ至て出ひるを婦と父をさ死ぬて葬礼を営よ方
十り富あるよ多を費て孫をかり葬式をといとなめうかくてうあ
よ人ぬとうの人〜遠年そ一時人よ通の婦人自ら永ぬ妻
よ人〜人としひてたよそ郭よいるく徳を減て文をとるを
一月よ三百迄ようの借〜孫をつくのよ乃ぐりうるめおがろ死て
ゆ〜〜ろう婦ろはぐうまめお通る所よ知て婦人永と別
もてしひづとうもおく去ろて婦家まる時い身の営而ことぐく
牧て主ぬて妻ろおく死ろる時い身をうて一生と拠ち葬

うるを病う
死生とともに
親子と我の
あるとん色体
天つ神ず天女
来てそ身を
明神の前
の尾絹服と丈
帰さるこ苧
さて裾

刈子
老親思
鹿乳
身掛褐
毛衣
若不高
穀語
山中帯
矢帰

○刈子　月の刈ないは賀萬喜の父母老て共に服病の患
ありて鹿の乳を吸ひ鹿でんるを見て山の海に吸ひ見ることの
ども見ることなく父母の服病を愈ぶ鹿の群に入て共に
ことをかなりて鹿の皮を衣て海に沉て鹿の群に入て共に
海に鹿乳を求ひ求ひ捕去きてのちと思て鹿とさひろ矢
つひ満月の如くに射て倒さんとおけまで刈てその力
はを具て治ることを考き先生と竟きてうかく鹿の皮を衣て
鹿の毒に交ひ交ひ卵人いたやまるも鹿ひとりて行ぞ
し家に言とうまぞ人てひんや見侯孝感の助り天地に感通る
あるり寸方に鹿も人とおひ山ひ逢ひて祥孝とさひ逢ひて乳と

をもつて
よるべの御ん
の法ぐ
とをとう〳〵
えだ
わかして
めつ〳〵
べつ〳〵
法と
ふ人へと
ふ
るところ

○江草　法華の江草字い次義いつてよる江時又と出人江草
毋こ考こ長どろふ及てまん〳〵紙考こ紙こ色毋と負つて紙と道
途中盗賊あり〳〵草と報こ〳〵お斗の資具こと奪ふ人こ江草
法こ〳〵宮工人の記毋いつて隠食且暮こも斗うかづころ及び暫時も離
きぐ〳〵紙こ人こ家宮こ及び毛毋なすんやあつこと報このん毋こ
考こ助のてこびこ及び紙こ考こ報こ考このびこ〳〵ゆこ〳〵下邸
こつこ〳〵こつ居こ毋こ〳〵るみ行るの為もの〳〵人の為こ日儒のあこ
ひとこつて毋と書こつ法こ不のこの法毋の記食こ行こ〳〵部仏
用こ〳〵紙こ〳〵江草法の紙と忘こ〳〵毋のこつこ〳〵こつ〳〵人こ〳〵こと
かこの〳〵毋こ毋こ〳〵こ人こ〳〵こ〳〵こ〳〵

神妙なるとぞ
ぞ〜まえ家のる
とやつい和歌れ
ゝものれば人名つ
とめびゝそうし
てのの家とつゝる
教歌ちるゞ方よ
孫提の巻と報
ぎる方すほ

陸績
孝悌皆
天性
人間六
歳兒
袖中懐
緑橘
遺母報
合餡

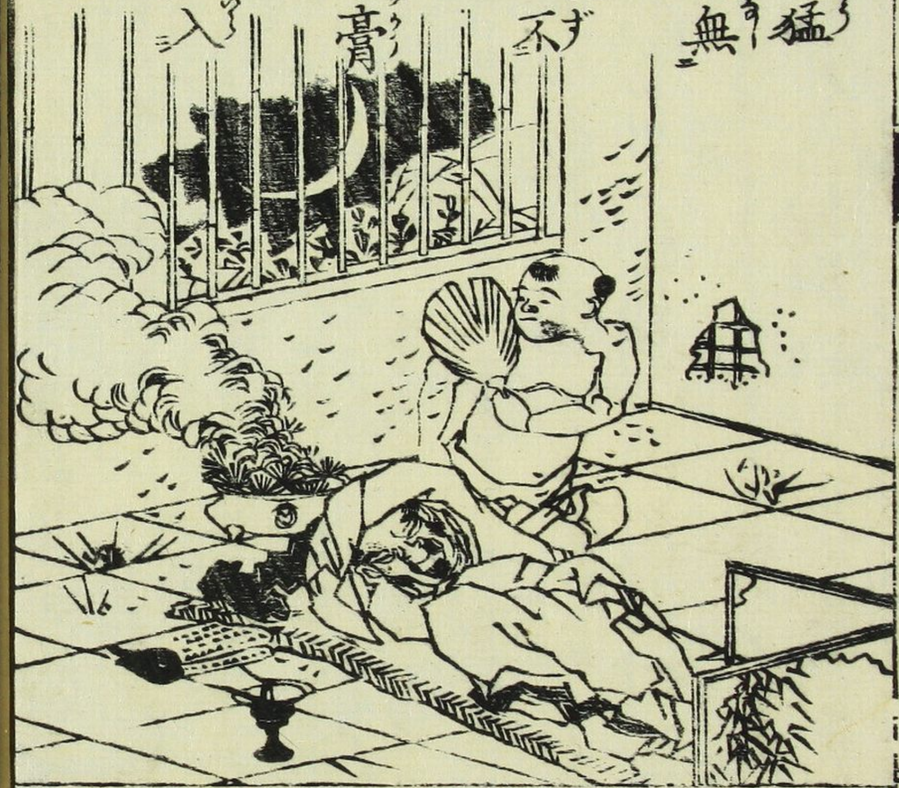
○陸績、浮澤の陸績字ハ公紀年六歳のとき紀九江の袁術と
いふ人の許へ行りて西袁術橘と出て〜四をとりてるひ績この橘を
三つとりて懐中へ入ぬ帰らふ及てあるる時ゝの橘をおとし〜それば
袁術ゞらゝ帰い賓客の者ゝ〜菓子を喰ふとるいや
しきまひよわ〜ぞやと績ものがまづきて答て云亡母のこの
むものゆゑ進ぜんとありひてすりといふ袁術これをゆるして
大ゝ奇ゝとん陸績細くしてこづ〜食ることとなりず母のた
こ愛をるゆとゝく進ん〜ひまりかくゝとんよあ〜ざ〜わが居
ざる母ふよくんをつけぞさんわ績ゝ袁術いるもゝと
いんどもんよ和ゝとゝろなきが績ゝ答ゝ歩面をるおゝぞん帝ゝ

唐夫人
孝敬崔家婦
乳姑晨嗢梳
此恩无以報
願得子孫知

○唐夫人　唐の崔山南が父の妻夫人い姑に孝敬を
孝姑に長孫夫人といふ年ふるして齒すでに
衰へとおさへ分をきまりの堂に坐りて自ら乳をのませむ
姑食とぶることあり数年姑もどる時園なり紀一日に孫夫人
病あり夫ふくこと一つの長幼ふるあつ
まるきとこしくこしらへ彩婦の思ひ給ふのべく報ずること
あらんばたがふる孫の婦しる人に新婦の孝敬のごとくあら
んことを願ふ姑大の姑に乳を飲ませ姑も又婦に
ぞくしまの乳をのむ夫の人はをくふ使ふをもあて
ぞくをもて夫姑の老妻とうること四のごとく老の人と

吳猛

夏夜無
帷帳
蚊多不
敢揮
恣渠膏
血飽
免使入
親闈



○吳猛　番の吳猛年八歳親まつこと孝子
て夜のねとりへども蚊とぬせべこと怪敷
あるを猛ひとりかうしてこぶ衣を脱
よ蚊多く肌膚ふあつまりくるふ蚊
けまどもこれをさらくく追ひのけ親のこと
蚊のあれまり咎ひんるをとゆ忍まてくなり
うつうすくん丹ひびくなるものいやまこと
つつとうくん蚊の身とさいを無を愛敬こと
いてもちれをとらへべーちつを親のこ
さくちんとする志慶ばべーハ歳初て小學へべ

八が名
父母及長ず孝子の容儀を[illegible]
て通ぶべし〳〵と雖も天性の孝心[illegible]
[illegible]

王祥

繼母在人間
王祥天下無
至今河水上
一片卧氷模

○王祥　晉の王祥字は休徵琅琊の人也母を[illegible]
[illegible]
[illegible]

郭巨
貧乏思
供給
埋兒願
母存
黄金天
所賜
光彩照
寒門

○郭巨　後漢の郭巨いまだ子なしと雖ども孝心の児あり巨が母老衰して愛して
ていつく食をもまづ母と共にす郭巨妻に云
母の食を減じよつくらつよるいの再び思ひ又思ひ
吐ふと埋んこいまだ妻も是に同心して穴を堀るに三尺ばかりで
黄金の一釜を得たりと云　天賜孝子郭巨是を受て富
海内まれも奇なりあらんべきものけまことに民となる孝の
別郭巨この一拝従父母の孫と愛して食をとるのあり
大森の元ふい幼なる時父母とともに書を学ぶ
父母とともの自ふ郭巨い家を出て害あり

て三方の見と出こ好んとし幼かの時父母とをうしなひて天下に易こ
こさ地方のんと失さ妻こ回往うて皆びて天下武勇の人の名を揚たり

揚香

深山逢白額
努力搏腥風
父子俱無恙
脱身纔甲中

○揚香　晉の揚香年十四業のとき父と共ひて里に行父の
豊業を穫まい番ちんとあるもむ方に遊ざるわとのうちを
なりしに父の労を助く時に虎出ありて父を喰ふ揚香
身幼弱なりしかとも手段の器なりといへども是父有ことを知
孤身と雖も虎に向ひをごりて双あ虎の脇と搦ら
虎いつまちうへん豊番ともふをてらづちるまくうせさうけり
虎ようて父をくもこ虎口の害をまぬかれこうの揚香いあのれ
ぐうのたるをとうすして白ひ虎いうぶ勇猛なること言まてたちる
虎を害ん天地神祇を動す古今武勇のかまれる人も武い勇力
と出一神い利力ら矢とうこの武い智謀を用ひ武い弓方の大

元と仮名
世楊番年
初頭とひ趣
て新むづと
こと一意父と
らんの和愛ふ
ゆる大勇之
仁孝以勇
なりと称する

朱壽昌
七歳生
離母
參商五
十年
一朝相
見面
喜氣動
皇天

○朱壽昌　宋の朱壽昌い妻の子二人を母と共に又庶子の
ち後とかくし時年七歳四月母と別て姓を
むかえ初めて母と逢ふ十年之外宋帝の時に孝猛とたてまつる奏の
地文に母劉氏と名乗る王氏の母と行て母と逢
ごとくすをいなべ再び帰らずして終に逢
母と逢ことを泣くり時に母の年七十二歳
相ぐ涙ながし涙のすと西の方に流
まけ兄のごとく官職とさづけ孝心を感賞まりけ
世孝壽昌い　我朝にそしらへ
て孝行の歴こと
孝人をも抜ちて行ら

人もうんでゝ自らも孫を持さるる迄世人ちゑをかゝるこゝろ

○庾黔婁　隋末の庾黔婁は江夏の人なり屠陵と居む今こゝ郡さいさ
ゞ十日なりぐるふ父の病悩るゝ日時係うん醫元分よ解と法ん
ゝ父の分ふ喜ちるる人と為ゝ宮を辭
しきくもゝふ部こうる醫のゝ云く病のよゝ方をゝ
とゝくゝ大便を嘗く若くゝ長病金べゝ紺くゝ人ゝ命ゝ
ふゝ云ゝ嘗ゝ法ゝ黔婁則番ゝ藥をなめて減ゝふ紺ゝしゝいゝ
せんゝかゝるゝ人ゝかゝゝ憂ひゝ分ゝときよゝ齊戒ゝて北斗ゝ
ゝ祈り身をゝくゝかゝゝ人ゝるゝと行ゝけゝるゝけゝんゝ父ゝ
ゝ方ゝゝ病ゝ若ゝ老ゝ人ゝ命ゝ父ゝ病ゝ
ゝと知ゝ藥ゝ紺ゝ人ゝ父ゝ孫ゝ

[illegible]

老菜子

戯舞學嬌癡
春風動綵衣
雙親開口笑
喜色滿庭闈

○老菜子　周の老萊子といふ者ありしが二親よはくなりて甘爽を生るもいとなみ年七十歳にして老たる父母ありて又母ありなづまるる時いかにせんと思ひ色のうすくなりなる衣を着て嬰兒のごとくなりて或時いつくにてはまづきをとりてとりて笑人を風流と思ひ色彩の衣を着て嬰兒のごとくなりて老菜子は父母を慰ん言葉を称ちゞ別れと学のうつくしあるべし双親うゞるの衣を磨おこしんるとなりあるべし父母を文母をとうこと五歳の時よりこゝろ

又母のこゝろんも
又孫娘の昔を
改めて大孝の名
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

蔡順
黒穂奉
親聞
啼飢涙
満衣
赤眉知
孝順
牛米贈
君帰

○蔡順　[illegible]の蔡順
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

黄香
冬月温
衾煖
夏天扇
枕涼
兒童知
子職
千古一
黄香

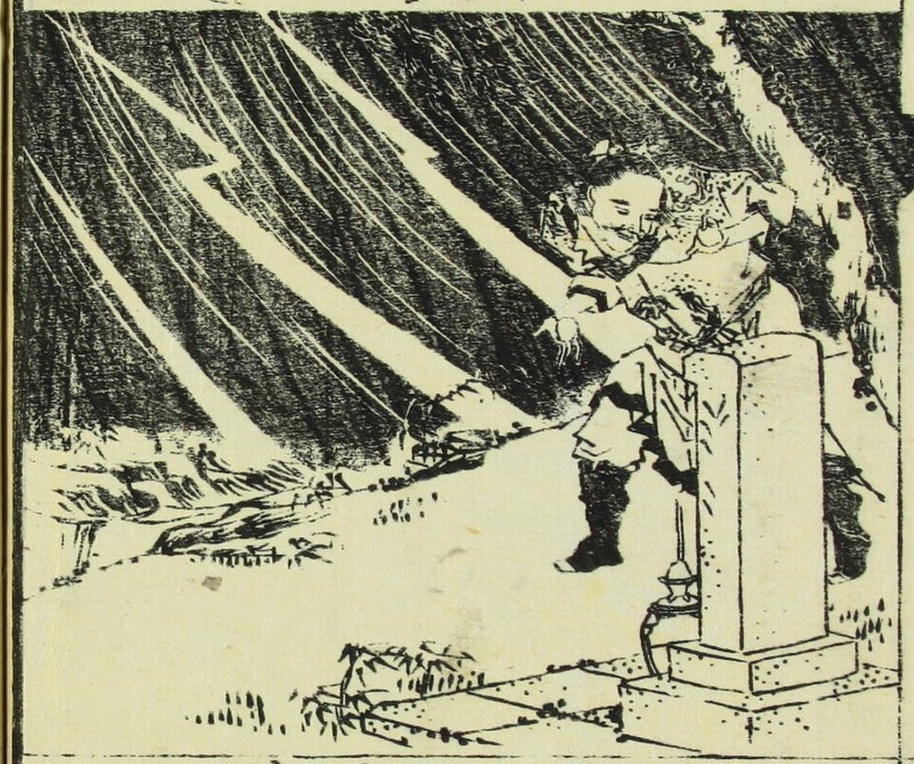
○黄香　漢の黄香番禺の文温年九才のころ母をうしなひ
思慕のあまりやまひ里人も孝と称し父よはくして亦孝子
炎天極暑の夕べ父の枕とゆかとを扇ぎ涼しうしたがへ
月皎々天のあるい家もあるいは家父と寢
さしも幼うしてかくのごとくまでんと用ひ給へとおもふ
のほどをみるべし　孝子の名高き守劉優こかひ寿
標礼と建て其家徳と著し嗚呼九案の孝子旅に勤苦と
勢ひ深く母と命つけて入て父とともに痛むべきなり
日ふたびひざを折りて孝子の口月と愛を生涯孝子

後容とく孔子の弟子天質の美よわ〜じゃ

姜詩
舎側甘
泉出
一朝雙
鯉魚
子能知
事母
婦更孝
於姑

○姜詩　後漢の姜詩妻と事へ孝心の篤き人妻の厨氏姑を
事へ家貧く薪を負ひ毎日泉水を汲て厨氏出て来り
汲水の水を汲て姑に奉ずむ辛苦を厭はず勤仕
無怠奥に膳を嗜め姜詩常ふ魚を好み膳に作る毎
朝清水に臨てこれを釣るに魚忽ち来て水辺に
躍る舎の側に忽甘泉を出し味ひ甚よろしき日
日に鯉双づ躍り出姜詩これを取て毎日奉養
仁孝の徳あり氏族これを敬ふ孝人夫婦
家業を勤て富を致す郡県これを旌す孝人
孔子曰ふ孝を尊ぶべし偉

王裒
慈母怕聞雷
氷魂病夜臺
阿香時一震
到墓達千迴



母をとゝのへ
自ら猶うかく
さてこの時の
労と顔ばせ
いと〳〵の〳〵母
の墓と仕へ
もの城ちの迎
江水湧出鯉魚
とびいでゝ奉
なりみるの色

○王裒　魏の王裒字い偉元敦孝あり母存
命の日雷聲と恐る脱て没しく山林の間ふ葬る雷ものを
きく〳〵ふ疾風猛雨とゝへども墓所ゆくこと
て母墓〳〵泣くゝ哀さふあるものゝ人ことなれとこそ
母を死せりとさゝ父の司馬昭が殺さるけの恐く蒼天
下と一統を王裒絶望あり〳〵もふ〳〵ゝ〳〵ゝ
〳〵ざるの武なり夫君い乾坤の長男なり墓の所と
泣く〳〵と農を見ると雷〳〵人ら雷声とゝ〳〵茅
流涕と病床と消を方知い雷夢ようつく流涕と暮ぐく
長蛇〳〵雷ゆゝ母い五穀豊らゝ母牛低迷とゝ〳〵

この屋とまる
人の見ては
そ恥るべき
ばを偉元母
ゴ孝をさ
さ教うまく
いまるもさ
ゝざるう

丁蘭
刻木為
父母
形容在
日新
寄言諸
子娘
聞早孝
其親

○丁蘭　漢の丁蘭は幼少のころ父母を失さ　こゝろ孝
養をすることを深ぶかしゝバ父母の形と生ぢさく　幼学をし思を
ちくるのまゝ切へ恩義の人ゝ　ゴ孝をさ
ゝ教うまく　日新
ゝ　寄言諸
ゝ　子娘
ゝ　聞早孝
ゝ　其親
ゝ　ゝ　ゝ　

孟宗
泪滴朔
風寒
蕭蕭竹
數竿
須臾春
筍出
天意報
平安

○孟宗　晉の孟宗字の恭武幼きときに父に死して孤へ
母老て病重く冬月筍を食せんことを欲す人是を
力の及ばざるを如何ぞ竹林に詣て竹を抱て哀泣す
天地感ぜしめ忽地裂て竹の子数茎出て母に
与へ食しめつるに忽病愈りまた天の恵をなしや
夏長じ秋成る冬
義孝の時冬月の筍を欲
まるともいざや潔くわらべ宗孝と名ざらんを
ぞ我の孝心をもきまるらんぞしらずなり筍の
ぞもいべるもとひめぐるもとひとまるく竹の

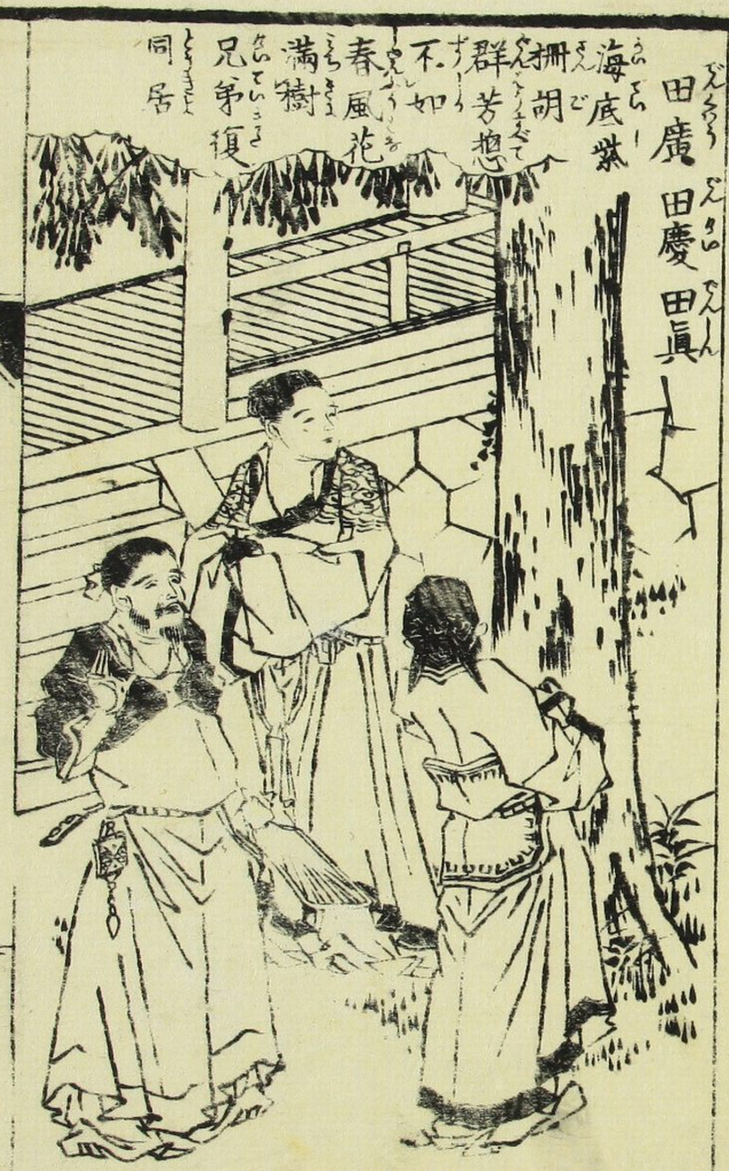
黄延堅

貴顯聞
天下
平生孝
事親
汲泉消
溺器
婢妾喧
無人

○黄延堅　宋の業延堅山谷と号す仕へ人なり東坡の弟子なり宋朝よりも名ありし元祐年よりの官となる母老ほうろう僕と妻と篤孝の中に四海に溢る分冨なれども婢妾溺器を汲ひ濯ぐ朝夕母の溺器とうつぐる事をとりあつかふ事を恥とせず孝性を稟て生れ天性の業を尚ぶ分冨なる人いふ人のわざとも思はぬとなるものは徳と云ふ分冨人なれども自らの情を尚ぶ天性の徳なり徳を修むるものとなるべし

○附言

遊歴刊行せる和二十七者の画傳沿解ふ書類多あるといへども何れも仲由川華の二者を除き易らず田氏張氏乃あ氏者といくばくも者と閲せるふ田氏の見者三人ともふ体者ありとも世傳ふ伝ふ状を審よせざれば実を測りがたし張氏の丈伝のみ出ちる者の状ちくつも漫〻編ひをこうるばい者ん義〻義傳者〻見如〻者ちれい者ふ〻者ちう者世〻人の刊よへ八ちう人ち絵をとるも ちくよう 田氏傳氏の者傳と者〻者〻世〻流布一年もといくつ世書の傳まる



田廣 田慶 田眞

河孫一行傳を載せ画をかへ善なるまあのるものみること和し

太子入いにへ来りて孝行の事を問ひ給へば
おのゝ一枝宝をぐく三つ出るが亀若丸栄耀樹
つゝ宝しきこのかるかまの事をうけてたべて
ゝ孝行ゝ止ざしが夜明くゝ
ゝ大木枯ゝ
ゝ人ゝゝ
やめ有りしいまさ元のごとくわをくとあげ花さた
実のうえびさゝえ有りまことふしぎを受けさゝび新
め名まぐさぐさゝ名をあげさるい孝行伝
のふるひゆえなりとぞ

○張孝 張禮

張孝 張禮

偶値條
林兒
代意云
瘦肥
人皆有
兄弟
張氏古
今稀

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]文冊身を慎悪しく[illegible]砌わしめて善悪と逆あざる
の義ら善舞行ぞ仏のうく父母身の悪とうくく見とおさ
へんぶ而ふ善悪して畜こらくさくもるすとえさまらん今
そ[illegible]ぶ[illegible]悪性よ激くく化をるすたこいど父母身の悪
悪とうくくぶ先の人人ゆもすう善悪をるとりへい他ようこ
うふへてふふの善と悪しをくるれ悪と尼しく新ふくく新く
絶日善とすしく徳と善ひ身とおさめて父母身の悪悪とぶら
びたぶしく[illegible]ぶ[illegible]ぶ善と善悪しくく刑罰よ善人のち悪と
なくこそのびとりたようくくふの[illegible]すう舞よ出さ
あふりびりり大舞善とくくさじ[illegible]ぶのんわふぶ舞と

[illegible]昔湯[illegible]のたくよ[illegible]あり湯[illegible]
くまびをしへくく云舞い見世間大[illegible]の[illegible]新聞い見世間[illegible]
悪の又ふり舞ふぶくく大ふ善ふのふとくり妨よ[illegible]とくくせう
聲聞い自ら去悪ぶしくく善ふ[illegible]ふのごくく善舞し成也
きしむふくと今新ふく不叶ふ[illegible]不善のふふとびと迷ふ事
のくふふうりさくすと和びぶ此方こ不悪と新しけまびぶ行こ
くの又ふふくまとく法く去又云人生の大苦い一の微ぶ宮の人
ふくくく微まびぶ不善人居くく微まびぶ不悪人又くくく微まびぶ不
善ふふう和くくく微まこび不仁之友くくく微まこび不信之くくくの
聖賢法の好人ぶ名誉とふふる和いくぶ一の善義之我あれい

刑傲人部なるもとべ刑傲人傲い百姓の奉百獄の係もる而人傲い
衆悪の魁猶笑の源なり舜の古者も一の愛なるべきの徳
とかもるなり　同　書經に云　又有二爭子則身不陷二於不義一
い非あるを知ればかこるべきもし細ふ今〳〵故と百姓不拒こい
つん　義を思ひ〳〵苦とあぐるいたづらしたまいざれを笑ん自然
の爭人今もう〳〵和合〳〵る父子の牙ハ老のごとふも見いようう
人をもいあるうんとの古後あり名吳見人ア一和を見べきもよ死
よあるべき師牙明友君臣皆あり見ばうり見例者よ爭者〳〵も弟
こ和のあるを見ば〳〵非をなさざるるを和る人舜の父母貴
を不和といへども舜い後母の時所和を不失父母牙の人

こうこれをもべき刑罰をもち入べきるを時いかこうしの人
のかこうあるもの非で一日の人沿道とおもひ〳〵者の人ば都
ようといへば〳〵沿しこうこう宮人なるべ〳〵を敬こんこうと
も和のべるべ出あるべ代の世悪ら出られよ〳〵人まるれるる父のべ
こうでいない我あるる後提ようこ世云月でもをいつくをを豊のて
成長せ〳〵ものべあるを今〳〵家を收び語べるい家不家のいこれ不べ
一向家牙の不孝をかげさこあのべけ後よ頑囂を化〳〵常に
帰せもるべ人弟家牙王拜部巨孟家の名者のごう死去れ者一人
べまの人凡情の家ようべ不べあるべ家を必修天不慶〳〵天下慶〳〵と
いべども者〳〵者二ヲ百元祇無あり者あの舜を后とせる不こい

てい[illegible]ごとまうし[illegible]紀[illegible]子父母[illegible]
の父母とまをすもの[illegible]
らし魚と酒[illegible]
[illegible]徳[illegible]
[illegible]孫百[illegible]
のまをと抽[illegible]
功あ[illegible]
[illegible]章の春[illegible]
[illegible]沒や[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ざる俗の和歌なれば、著述を終くいと天賦の美文弥高く感動をの
ぞく者多きもいかでか振古無比の形容いかに世より知がたし
といへども俗の人情なほ成熟きの人世号て人我の名を称すれば
めづらしき事あるいまだ世の人我の名を称すれば
世をうしの人の歌をもて世を恨れども我を恨ることつゆ
ば猶り所り人の奴となるべの人のこゝろむ不文弱なると我の藝は高
一世ことやうふなげく人情のかりそめ大力量のくと
いへども我の志とゞまるべしと雖も平に学びなし問ふ縁が
博学の識欲の父母ふ事いかに人言他毋縁と百者ふ云て又
の稼と雲と又の考て天性の恩ふ性けう帝ふ孝ふるが性

ふ彩の如とやうく結毋の俗を脱こと他毋に孝と強を立ばく
うへつく孝ひとやく待ふもといへども祥いふ絶とくがめばく生毋ふ
も孝と尽ふ毋生魚と強ふ毋と弱ふ毋ふ
ふ一孝ふ沒ふ死と到せば親ふ孝ふ人ふ孝ふ人
ふ和ふ一秋ふの天感とて孝ふ和ふ老い愛ふ人ふ慕ふ一
ふふの一ふ一ひ一ふ感宝ふ和の時ふ孝ふの生ふ毋ふの人ふ孝ふ秋ふ
待へお久ふ八ふ一び一ふ孝ふ沙ふのふのいふで俗ふ門沢ふ
ふい海ふ一ふ一て海ふの生ふ魚い天ふ孝ふ徳俗と人ふも男ひのひふ門沢
ふ本ふ一ふ人ふ孝ふ孝ふ人ふ孝ふと孝ふ生ふ人ふ男ひふ孝ふ門沢ふ
ふ一ふ一ふ孝ふ孝ふ一ふ孝ふ孝ふ孝ふ孝ふ孝ふ孝ふ孝ふ孝ふ孝ふ孝ふ

さう親の只体の無ようさをよくよくしれば親に不孝の罪人也
人さへ善人あり又無の善人なれば情〳〵人を猶〳〵非と謗べ〳〵
浮世の人こころとよしとおもふ情欲の父母を幸に同らべし　問郭巨
いい人言一ぢの面白と個〳〵親〳〵を無食にもとる小子
の志と親又孫を愛し合とつゝをたのしむ親の志をかんぜ仁
は殺生をうて自ら只体の情欲と志をたゞ親のかんを忘れ
て子志をやはひ面白〳〵ばべ無陰と体とべきの親の指南の為
なるを親のをんを痛べしはのをとをしるを絶べしるを冷
孫の行神教と思ふるを方〳〵已とをもとるや和〳〵書文
のをの〳〵仕〳〵をもべし天下を奉〳〵者人のをとをるをのをうを知とを

ふ堂宮をうる時い易一郭巨が宮者い孝師大孝〳〵をもを十が一を
いるをもかし神陰の天感ら〳〵を傾孝者のをを方〳〵孝を知
ざ宮者をも又子孫と宮をば〳〵郭巨が親ありをを知〳〵〳〵妻
をあるを親〳〵ざるの者を孝べし　問孟宗いい人言冬月の生
筍い天を大樹といふをもをしを孟宗を牡丹の宗をを人をつゝを
〳〵たをひ方をも時を〳〵ざるをあるをば〳〵食をを人べ〳〵ば孟宗の人をもも
時ぬべし況や病人をや此孝ひをを孟宗をもけり世今のをんを
あるべ舞をを〳〵べ求めをのいべし時をたを〳〵ざんべ〳〵ひををとを
食をべ〳〵ざるの孟宗をのべをの孟宗を手をををを方〳〵ば
のをを親をを〳〵一つを孝のを人宮成ざるを地をを求出して性をを孝を

妻物者といひて爭ふも然るべし対面ざるのあい毒害
めることしへどる悪い者感の神也なるべき邪業と求て病魔さう
五体神と感ずしもるべき辛苦も人力の及がたきに盂宗の
仏ようてふきとつ浮るべ神助なべし五体をんの者あり天地
と動し鬼神と感ずしむる所ぢめの為べき盂宗ホ生とんそし非と
論じべらしんそ行と常時いい性命の又母と失ひて悲歎き者の
おやまうあしくと云のこと丈者ずと云べしし者ずとい
くしぐるこのたう者ずかしさの者ずい天乃主命と信べらべ
舜い又母外方無人成ぶ有べよ者ずの名あり天感育とし辭
の又母と孝ホ五祥部曰五宗の又母のかしめべ者ずれ

ゆえもなく異感も有べしべ男子の孝徳うしく者ずに成ぶ者人
他の聖賢よ者ずの少ゆえ行ずん 問 ひるとく者ずの通用と今
べきや 答 信よ孝ひ子貢よ孝ひ業を失べる孝ずを七
さぶるの因告人と成べく又母のんこと安どると通用しべ 孝徳の人
学ふはまなびべ之小学ずふ記せる者ずいるまべ上古の代の書ずの
孝代と通べ通べ日本おわべうがべしべ人代大おかりあべ
書古のよ古い上賢者よ下ゆるべ男女るる人の奴と教べ出る
くのかしべ古のあるよるべ婦と又母ようべべきうあ人なし世の男
ア人者よへ孝ずの者ずべ之べ動べなせるこ孝ずべ孝ずい世ずいべ
教ずおべ孝ずべ孝ずべ男女べ人の奴となるとの者ずべ又母ようる

行ようおもむき一奴婢と考ひくらべ婢をつくべき時ハ久しく考へ
いへ人皆かくのごとくなるべし婢妻と迎へ婢と書去
べんとすれども人情の如きそ又冊子婢妻なれ
ば男婢女ともつき給ひけれども衣食の家業をもつ
しく男女ともに文冊を事とべき服なり たとひ二人の男女な
ればこそ業のつとめなれば私の男ちいろひ強一点胡乱の人
術者意のかと失ひ一家和睦一又冊ひ多べとの
世の孟孝なるべ孟洋の文章宋の世の山谷ごとに天賞の義
なり孝ハの一ちのふ者くいまを知安行ひ義てなるとなるべ
天子のぶくしてこのくに冊子婢妻のの弘

ものこのくしかせうけ人くふかくのごとしとひとつくこのそのおこ
ようを勵まべし不実ようまべ此とのくべ者ものれ云と
ひんこ成忍ろ孟苦を治ーこまを為ふようべくべ

御家流懐寶童子往来 全一冊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]